

農業の新しい技術

No. 675(平成26年5月)
分類コード 01-09
熊本県農林水産部

カンキツ新品種「熊本 EC11」の特性

農業研究センター 果樹研究所常緑果樹研究室
担当者：北村光康

研究のねらい

12月は温州ミカンの最需要期であるが、本県ではこの時期に出荷できる良食味の品種が少なく、12月の出荷量が不足している。このため、12月上旬に成熟し、高品質で食味が良く、浮き皮の少ない中生温州を育成する。

研究の成果

<来歴>

「熊本 EC11」は、1999年に「させぼ温州」を種子親にハッサクを交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生変異である。

<特徴>

1. 新梢長、節間長は「させぼ温州」より長く、トゲが若干発生する（表1）。
2. 果実形態は「させぼ温州」と同様である。果汁の糖度は「させぼ温州」よりやや高く、クエン酸は同程度である。また、じょうのう膜が薄くて軟らかく、食味は良好である（表2）。
3. 浮き皮の発生は「させぼ温州」並みに少ない（表2）。

以上のことから、「熊本 EC11」は、じょうのう膜が軟らかくて食味が良く、浮き皮の発生も少ないため、12月に安定的に出荷できる中生温州として期待できる。

普及上の留意点

1. 「熊本 EC11」は、県内の温州ミカン栽培地域において、温暖で日照条件が良く排水良好な園に適する。
2. 栽培性は「させぼ温州」と同程度であると考えられるため、結果期に至るまで、芽かきや誘引を行いながら葉数を確保し、適正な樹相を維持することが必要である。
3. 着花確保のため、初着果時には側枝を誘引し母枝を下垂させ、着花促進を図る必要がある。
4. ウイルス・ウイロイド対策として、高接ぎ樹からの穂木採取は行わない。

表1 「熊本EC11」の葉と枝梢の形態(2012年)

品種系統名	春 葉					春 梢			
	葉身長	葉幅	葉柄長	葉面積	葉色	基部径	長さ	節間長	トゲ数
	cm	cm	cm	cm ²	SPAD値	mm	cm	cm	本
熊本EC11	8.7	4.0	1.73	23.7	84.9	3.3	12.5	1.8	0.1
させぼ温州	8.1	3.7	1.63	20.8	87.1	3.1	10.6	1.3	0.0
興津早生	9.0	4.3	1.91	25.6	77.9	3.1	13.0	1.7	0.0

注)トゲ数: 春梢1本当たりの本数

表2 「熊本EC11」の果実形態及び果汁成分(2012~2013年)

品種系統名	平均 果重	果実 横径	果形 指数	果肉 歩合	糖度 (Brix)	クエン酸 濃度	糖酸比	食味	じょうのう膜 の硬さ	浮き皮	
										発生率	発生程度
	g	cm		%		%				%	
熊本EC11	121	6.7	135	84.1	12.8	0.86	14.9	4.4	1.2	2.2	0.01
させぼ温州	126	6.9	139	85.3	11.9	0.83	14.3	3.3	3.3	1.7	0.01
興津早生	128	6.8	128	84.8	11.5	0.83	13.9	3.3	1.7	—	—

注)調査日: 2012年、2013年とも12月2日。

食味: 5(良)、4(やや良)、3(中)、2(やや不良)、1(不良)の5段階評価。

じょうのう膜の硬さ: 5(硬)、4(やや硬)、3(中)、2(やや軟)、1(軟)の5段階評価。

浮き皮発生程度: 0(無)、1(軽)、2(中)、3(甚)で調査。



写真1 「熊本 EC11」の着果状況



写真2 「熊本 EC11」の果実



写真3 「熊本 EC11」の樹体